

NPO法人フラウネッツ

理事長 宮田 志保さん

事業内容

主婦を中心とした在宅ワーク希望者を対象に、セミナー、交流会、仕事情報交換のSNSの運営を手がける。理事長のほか、在宅ワーク経験者7人がスタッフとして活動している。

<http://www.fraunetz.com/>

ポイント

- ・在宅ワーカーが自力で仕事を獲得できるよう、道筋を付けるための支援を提供
- ・仕事情報の交換や仕事仲間を募ることができる、紹介制SNSを開設

I 仕事仲間の悩みを解決することから始まった法人化

宮田さんは、大学卒業後、電子部品メーカーと広告制作会社に勤務したが、出産のため退職した。会社員時代は文章を書くだけでなく、取材方法、準備、簡単なDTPもやっていたので、その経験を活かし、フリーライターとして創業した。

※DTP（Desktop publishing、卓上出版）

宮田さんの、個人事業主としての最初の仕事は、広告制作会社の営業社員が作った取材メモから、ショップの広告文を作成することだった。それに慣れると、次第に、取材も含めた広告制作を依頼されるようになった。

転機となった仕事は、マンションの販売促進に使われる、建設予定地周辺の情報誌作成の仕事だった。当時、幼い子どもを抱えていた宮田さんは、現地取材をしようにも自由に歩けないので、取材を手伝ってくれる人が欲しいと思い、自身のホームページで協力者を募集した。すると、非常に多くの応募があり、一都三県のほぼ全域を網羅する登録者ネットワークができた。これが強みとなり、マーケットリサーチ、覆面調査など様々な仕事を依頼されるようになった。

しかし、いざ仕事を依頼しようとすると、登録者から宮田さんの元に、Excelを使ったことがない、ビジネスマナーに自信がない、どうしたらよいか、といった相談が寄せられることがあった。登録者への研修を検討したが、個人事業主の立場では、怪しまれて研修会場を借りることもままならなかった。その打開策が法人化だった。

有限会社という選択肢もあったが、宮田さんは、在宅ワーカーに仕事を委託しているスタッフや他の会社の競合相手となるのは、もったいないと考えていた。他の会社や団体との共存を叶え、スタッフが自由に自分の仕事を取れる組織形態が、NPO法人であった。

II 在宅ワークのスタートラインに立てるように

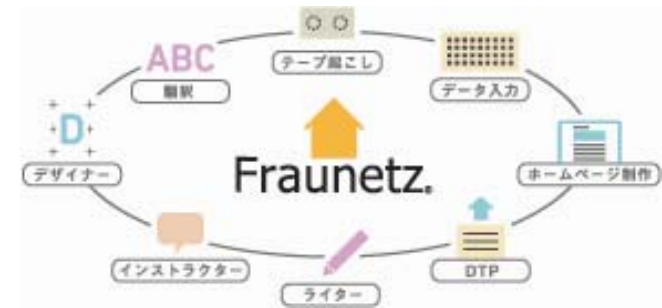
「フラウネッツ」という名前は、ドイツ語の「Frau（女性）」と「Netz（ネットワーク）」を合わせたものである。同団体は、悩み、不安を抱える女性たちへの支援団体としてスタートした。

同団体は、仕事のあっせんよりも、交流会や相談など、支援に重点を置いている。在宅ワーカーとしての基礎的な力を付けた上で、エージェントなどが発注する仕事の獲得に結びつけてもらおうと考えているためだ。具体的には、在宅ワークを始めたい人のための導入教育のセミナーを行うとともに、SNS「Fit」や交流会により、在宅ワークを始めて間もない人に、仕事のきっかけを提供している。

セミナーは、主に自治体からの委託で開催する。50名、100名単位でも、希望者が多く、すぐ定員いっぱいになる。在宅ワーク初心者を対象としたセミナーを、現在でも続けている団体はほとんどないため、宮田さんは、セミナー開催には社会的な意義があると感じている。また、かつてのセミナー受講者が独立し、事業者同士として、また、仲間として話ができるようになるのはなにより嬉しいことだと、宮田さんはいう。

Fitは、仕事を開始した在宅ワーカーが、仕事を共同で行うメンバーを募るためのものだ。信頼関係を醸成するため、登録しているメンバーによる紹介制をとっている。

また、Fitには、社会貢献などを行っているNPO法人などから同法人が請けた仕事である「業務推進案件」も掲載している。業務推進案件の中には、初心者には難しい仕事もあるが、スタッフの指導を受けながら進めることができる。これを実績として、在宅ワーカーに、次の仕事を獲得するためのアピール材料にしてもらうことが狙いだ。



(画像提供：NPO法人フラウネッツ)

III 仕事の幅を広げる、キーワードは「協働」

同団体はもともと、女性に対する支援を念

頭に設立した。今後も、女性、特に主婦の社会参画の実現という目的を掲げて活動していきたいと考えている。

同団体設立時と比べて最も変わったものとして、宮田さんは、スマートフォンなどの情報端末の普及を挙げる。進化に遅れることなく、新しいツールで効率よく在宅ワークを行う方法を、セミナーなどで伝えていきたいと考えている。

宮田さんは、在宅ワーカーは、お互いが競合相手ではあるが、一方で、協働する視点を忘れないでほしいと考えている。例えば、ライターがFitを通じてDTPオペレーターやカメラマンと組めば、冊子作成を丸ごと請けることができる。宮田さんは、多くの在宅ワーカーと話す中で、協働することで仕事の幅が広がることに気づいていない人が多いと感じている。今後は、在宅ワーカー同士の情報交換の場を活用して、情報を共有しながら切磋琢磨する在宅ワーカーが増えることを期待している。